

NEW ZEALAND SOCIETY OF JAPAN, KANSAI 日本ニュージーランド協会(関西) 創立1970年11月 会報 2011年7月

230 回例会のご案内 太津さんの果樹園で柿狩りと散策観光

11/20(日)10:40 近鉄吉野線下市口駅で集合。近鉄吉野線下市口駅から小型バスを使って果樹園へ行きます。

231回例会 クリスマス会:いつもと同じ場所の神戸外国倶楽部で12月23日(金・祝日)11:30 開始です。ご予定へ組み込んでおいてください。費用は6,000円程度を予定しています。

第 228 例会の報告 神戸でクック&テイスト NZ ラム&ビーフ

5/14(土)神戸市市民福祉センターにて恒例のラム料理に NZ ビーフを加えた料理会を行いました。



第 229 例会の報告 南丹町国際交流協会との情報交換と美山町観光

7/3(日) NZ クルーサ連合地区との姉妹都市である南丹市を訪問しました。南丹市国際交流協会の皆様、ありがとうございました。



事務局:〒530-0028 大阪市北区万歳町 3-41 城野ビル 201 電話: (06) 6367 1773 FAX: (06) 6367 1793 makltd@d1.dion.ne.jp

ホームページ http://nzsocietykansai.com/

2011年7月24日発行会報

230 回例会 柿狩りと散策観光 のご案内

日時 11/20(日)10:40 近鉄吉野線下市口駅集合場所 奈良の果樹園(下記の地図を参照) 費用 2,000円(昼食+マイクロバス) (行き方の例)

地下鉄御堂筋線で梅田 08:58→天王寺 09:13 天王寺駅から近鉄阿部野橋駅まで徒歩 5 分 近鉄南大阪線「吉野行」で阿部野橋 09:20→下市口 運賃: 片道 1,160 円



第 228 回例会 NZ産ラム&ビーフ会の報告 佐藤 慎平

ラム肉会に参加する度に、ラムってこんなに美味しいの かと改めて感じます。

先日の5月14日(土)に毎年恒例のラム肉会(今年はビーフも)が開催されました。ご参加いただいた方の平均年齢が昨年よりも若干上がっていたような気がしますが(?)、それはさておき、料理が得意な人、苦手な人、ただ食べているだけの人(笑)皆さん段取りよく料理に取り組まれておりました。

今年のメニューは、カレー、火鍋、香草ロースト、味噌ロースト、パブローバのおなじみのメニューに加えて、牛肉のたたき、ラムスパイシー仕立て、ラムのミントソース和えというラインナップ。どれも美味しかった中で、ミントソース和えが今回の人気投票1位となりました。ミントのさっぱりした風味がラム肉にマッチし、私も個人的にこれがNo.1でした。

私のチームは全員男性で、味噌ローストを担当しました。 決して段取りはよくありませんでしたが、味噌ソースの味そのものに助けられ、こちらも大好評に終わりました。

最後は皆さん、もう何も食べられないくらい召し上がら

れてご満悦の様子でした。 ANZCOフーズさんとニュージーランドに感謝です!

229 回例会 南丹市国際交流協会を訪ねて

ワイカト大学日本事務所 吉田 恵

2011年7月3日。この日は少し湿気の多いお天気ではあったが、普段神戸や大阪の街中で感じる蒸し暑さとはまた違い、それほど不快感は感じられない。日吉町は野山に囲まれた緑豊かな町で、京都市内に比べるとかなり涼しく、冬は雪が30~40cm積もることもある。スプリングスひよしでは、南丹市国際交流協会の方々が「ようこそ。遠い所までよう来てくれはりました。」と温かい笑顔で迎えてくださった。しかし、里帰りを兼ねて参加させていただいた私としては、NZ協会の他の会員の皆さんに「遠い所からはるばる、よう来てくれはりました。」と言いたくなるような、自分がお客さんとして迎えられることに何となく違和感のような不思議な感覚があった。

日吉町の隣町である南丹市園部町は、私が大学卒業ま での22年間を過ごした小さな町だ。英語が好きで、毎日N HKのラジオ講座を聞きながらいつか海外に行くことを夢見 ていた私は、高1の夏に初めて海外でホームステイをする 機会を得た。園部町が実施した国際交流事業の一環で、 当時の国際交流員のナタリーさん引率のもと約 10 名の高 校生がアメリカに12日間滞在した。今でこそ、ワイカト大学 に短期留学する高校生や大学生に『ホームステイの心得』 なるものをプレゼンテーションさせていただく立場になった が、当時の私のホームステイは 1 週間足らずで、一緒に参 加した友達と2人1家庭。約1ヶ月、たった1人でホームステ イをして現地の学校に通う今の生徒/学生に比べると、当 時の私はお気楽なものであった。しかし、この経験がきっか けで国際交流活動に興味を持つようになり、大学4回生の 時には総務庁(当時)が主催する「国際青年育成交流事業 (航空機による青年海外派遣)」に応募し、京都府代表とし て約 1 ヶ月アメリカの各地を回り、見聞を広めることができ た。

そして現在、縁あって中学生~シニアの方まで、実に多くの方のニュージーランド留学のお手伝いをさせていただいている。私が海外に目を向けるきっかけを作ってくれた故郷・南丹市と、仕事を通じて素晴らしい出逢いを与えてくれる大好きな国・ニュージーランド。今回の南丹市国際交流協会と日本ニュージーランド協会(関西)の交流には不思議なご縁を感じずにはいられない。今後も、南丹市とNZクルーサ連合地区の姉妹都市交流がより活発に続いていくことを陰ながら応援していきたいと思う。

最後にこの場を借りて、南丹市園部町出身の小寺洋一 さんの本を紹介させていただきたい。

「白い杖のひとり旅 ーニュージーランド紀行ー」連合出版

小寺さんは立命館大学理工学部在学中に化学実験で事故にあい両眼の視力を失ったが、持ち前の明るさとバイ

タリティで、ニュージーランドに3ヶ月一人旅を敢行。そこで 出会った人や出来事について綴られている。本屋さんで購 入するよりも図書館で検索いただいた方が入手しやすいか と。小寺さんはその後、京都府立盲学校を経て甲南大学に 入学。視覚障害者として初めて臨床心理士の資格を取得 され、現在スクールカウンセラーとしても活躍されており、2 008年~は日吉町の殿田中学校で週1回カウンセラーをさ れている。

会員からの寄稿 -

年こそ薬

柳田 勘次

6月4日、Kobe Symphonic Band(正木団員)のコンサートに出席する前に山田、塙、宗佐、柳田の4名が会食をしました。当協会の正木監事は名トランペッターで以前から出演していましたが、二年前から演奏は(年で?)止めています。曲目では、『今夜はビートイット』(M.ジャクソン作曲)がとくに圧巻でした(931 名出席)。しかし、それに負けず劣らず、食卓で交わされた会話も素晴らしいものでした。皮切りは宗佐さんが「はじめることとあきらめないことさえ忘れなければ、いつまでも若い」という、100 歳の現役医師・日野原重明の言葉を紹介されました。

終演後に宗佐さんは「幸福度(しあわせど)実感上がるエルダー会」と、お得意のフォト五七五を披露されたが、私は日野原医師が「100歳の医師」であることより、彼が老いてなお多くの事にチャレンジしていることに感心しました。普通の老人は身体能力が落ちるので、無理をして「生涯現役」を通しても悪い事が多いからです。しかし、皆が自分の生涯目的に向かってチャレンジしながら、老人の得意な気配りと思いやりで家族やソサエティを支えれば、若い気分を保って家族と社会の役に立ちます。

1「君子和而不同」(論語)は、気配りをして誰とでも仲良くするが、正しいと思う意見は主張するという意味です。

それが年輪をへた「老人」という言葉の意味ですが、「高齢者」は年齢が高いというだけで、性別も経験も無視しているので嫌いです。例えば「老女」はふくよかなイメージがして、女優の東山千栄子を思い出します。東山はラネーフスカヤの役で、「桜の園」に 200 回以上も出演しました。彼女の没年は 90 歳ですが、諺のように「年こそ薬なれ」で晩年の舞台は素晴らしかった。杉村春子、久我美子、俳優の山村聡、笠知衆なども同様ですが、上記のような優れた人たちが当協会にもいます。

- 1 「年こそ薬なれ」とは、年をとるに従って考えが深くなること。「老いたる馬ぞ道を知る」(平家物語)や「老馬道を知る」(韓非子)も同様の意味です。
- 2 「後期高齢者医療制度」は嫌いな言葉の一つです。人間を男女 込で無機質に捉えているからで、社会保障用語としてもふさわしくあ りません。

私がそんな事を考えているうちに、話しが英さんの近況 に及びました。そこで、英さんから電話があって、彼のガン の数値が好転したことや、外国倶楽部のクリスマス例会に 出席したいと言っていたことを話すと、皆さんが喜んでくれ ました。ついでに、私が近いうちに群馬に行くので松戸の 英さんと会う話をすると、一週間後には山田副会長と宗佐 さんから英さんを激励する色紙が送られてきました。まさに、 気配りと思いやりを象徴する話しで、これが当協会の「会 風」だと痛感した次第です。

「追記

英さんは医師から厳しい診断をされましたが、ホスピス行きと抗がん剤の服用を断って、松本さんが手配してくれたプロポリスと笑いと気力でガンと闘ってきましたが、宣告された余命を遥かにオーバーして、腫瘍マーカーが正常値に近づいたとのことです。以下に、英さんからの嬉しい手紙の一部を紹介します。『七月八日、二ヶ月に一度の検査の結果を同封いたしました。その中で1/14は高熱のため救急外来の数値です。今迄に5回高熱を出し、その都度翌日は低下し、近くの医師は"人間未知なるもの"の一言で要約されました。腫瘍マーカーCA19-9の正常値は37ですが、39.0まで近づきました。共存共栄の道を歩みたいと願っています。

注 腫瘍マーカーの推移 11年1月7日 61.9 11年3月4日 62.2 11年5月12日 43.4 11年7月8日 39.0』

NZ のハット市から来た剣道クラブ

永田 美夜子

ウエリントンの昭子さんから連絡が入ったのは 4/20 昼。 NZの剣道グループ (http://huttkendo.org.nz/)5 名が翌 21 日夜に関空到着、計画停電のため稽古を予定していた 東京の道場がしばらく閉鎖になるので、急遽関西に日程変 更した、アシストをして欲しいとの事だった。

急な話のうえ詳細が全く不明! とは言え日本全土が放射能汚染されているかの如く訪日旅行キャンセル続出するなかの来日である。これは歓迎せねばなるまい!NZからの長旅をものともせず、到着早々夜の大阪を楽しんできた元気一杯のスーは、翌朝海遊館へ行き午後大阪城見学をして、大阪城公園内の修道館で稽古をしたいと言う。

5 名とはもちろん初対面。リーダーのスーとリズは日本在住経験者、初来日の3名、タプスは母親がタヒチアン、ピーターは南アフリカ、エイミーは英国人だった。スーとリズから日本についてのレクチャーを受けてきたらしい。国際色豊かな一行はNZ流のあけっぴろげさで、私たちはあっという間に打ち解けた。よくきけば彼らはハット市剣道クラブで、我らが協会会員の佐藤敞氏が会長をつとめる箕面市ハット市友好クラブとの交流予定もあるという。共通の知人の多さはまさにit's a small world!

さて、大阪城。彼らの関心は城や歴史ではなく、展示されている鎧、兜、刀剣だった。西洋のものとの比較考察もなかなかなもので、私は逆にレクチャーを受ける側となった。ちなみに真田幸村の鎧兜はドイツとの相似がみられるそうだ。兜と陣羽織で写真が撮れるコーナーで興奮は最高潮

に達し、嬉々としてポーズをとる彼らはたちまちギャラリーに囲まれた。



刀を構える姿が様になっているのはさすがであった。そしていよいよ修道館へ。連絡を入れていたとはいえ、やはり外国人が稽古に来るのは異例のことであったらしく、後日「NZ人が道場破りにやってきた」と大阪剣道界でうわさになっていたと聞き、私たちは大笑いした。

皆の袴姿はりりしく、名札が「NZ スー」となっているのがかわいい。最後に打ち込み稽古の指導者からアドバイスを受け、4人とも見事な型で礼をしたのが印象的だった。

稽古の後は腹ごしらえだ!安くて種類豊富な居酒屋、と リクエストを受け 280 円均一の店になだれこむ。つきだしの 枝豆をピーターはサヤごと食べ、揚げ出し豆腐の不思議な 食感に目を白黒させていた。

稽古を済ませた解放感からか、私たちのテーブルはタプスが持参した旅行者向け日本語会話本を肴に異様な盛り上がりをみせた。えー……下ネタで盛り上がるのは世界共通のようです。Social-Romance-Sex という項目と、具体的な会話の数々に驚愕…((なるほど、社交ねえ。これ、外国人が日本で必要な会話なんだろうか。日本は一体どんな国だと思われているんだ??)) 私を相手に会話の練習を行なった。先生として彼らが日本滞在中に実践する機会に恵まれ、且つ相手にひっぱたかれないことを心から願う。後学のためにとスーがコピーをくれた。いつ、どの様に役立てよと言うのか。

翌日女性陣は宝塚歌劇を観に行き、特に羽を背負ったフィナーレに魅せられたそうだ。一度観ればハマるという宝塚、NZ人も例外ではなかった。24日は午後に大阪産業大で行われる剣道の試合を見に行き、午前中はショッピングとなる。この日は柔道交流でウエリントンを訪れたという、英語教師のひろしさんが一緒だった。さすが先生だけあってきちんとした英語を話し、日本語の解説も上手く、私の付け焼刃英語が恥ずかしい。試合会場でオタゴ大学から関西大学への交換留学生テイラーさんと知り合う。

「剣道」を通じて日本に来ているNZ人は一体どれほどいるのだろうか。帰途、野崎参りで有名なのざき観音にお参り。 急な石段に音をあげそうになったが、境内からの見晴らし に気持ちが晴れる。桜が咲き乱れる本堂や観音堂、お染 久松のお墓などを興味津々で見学後、ひろしさん宅にホームステイに行く一行とお別れした。後日京都で行われた集 まりに、風邪のため欠席し再会出来なかった事は返す返す も残念であった。気持ちのいいニュージーランダーたちとの 楽しい2日間だった。

ワインの町 ブレナム

片波見 徳将

クライストチャーチから車で 4 時間ほど北に向かうと、Vineyard(ブドウ園)が広がるマールボロ地方に到着します。マールボロ地方は全国一日照時間が長く、その乾燥した気候と昼と夜の寒暖差、水はけの良い土壌が質の良いワインを生み出し、ニュージーランドのワインの 60%以上がこのマールボロ地方で生産されるそうです。また、マールボロ地方はワインの他にマールボロ・サウンドの美しい海岸線や自然豊かなクイーン・シャーロット・トラック等、アウトドア・アクティビティの宝庫でもあります。



私がブレナムを訪れたのは2006年の夏(1月)の事です。 それまで9ヶ月間クライストチャーチで生活をしていた私は、 資金が乏しくなってきた事もあり、先にVineyardで働いてい た友人の誘いを受けブレナムへ行く事にしました。

Vineyard で働く人達はまずコントラクターと言う派遣会社の様な所と雇用契約を結びます。コントラクターはマールボロ地方にある数多くのワイナリー等から Vineyard の管理を請負い、各地に人を派遣します。

Vineyard での仕事は朝早く、Vineyard で朝日を見る事も何度かありました。Vineyard ではブドウの生長と共に仕事内容も変わります。ブドウの苗の植付けや蔓をワイヤーに誘引する仕事。育ったブドウの高さに応じワイヤーを張り。ブドウの実が成り始めるとブドウの木にネットを張ります。さらに成長するとブドウの実を間引き、そして収穫。どの仕事も正に肉体労働です。



ブドウ畑

ブレナムでの生活は日本の生活とはかけ離れた共同生活でした。最初のコントラクターが経営するバックパッカーズでは20人近くの人が生活をしていました。毎日みんな同じ時間帯に仕事を終えて帰って来る為、宿に到着するとすぐに3つのシャワーの争奪戦が始まり、そしてキッチンの争奪戦へと移っていきます。部屋は6畳程度。2段ベッドを2つ置きキゥイやドイツ人との相部屋生活。彼らは寝る時も窓を全開にして寝ます。夏とは言っても夜間は結構冷え込み、日本人の私には寒すぎ、何度もこっそりと窓を閉めていたのを覚えています。

1ヶ月が経過した頃、宿でゆっくりとくつろぐ事ができなかった為、宿を出るならば仕事を減らすと言われていましたが、友人達と宿を出てモーテルで生活する事にしました。モーテルは宿より町の中心地に近いにもかかわらず、宿と同じ1週間\$110、光熱費込み。夏のモーテルには私達と同様にVineyardで働く為に安いモーテルで生活をする人が大勢おり、どのモーテルもほぼ満室。私達のモーテルもほとんどが長期滞在者でした。

モーテルで生活を始めて間もなく、以前町で知り合った中国の方が、別のコントラクターの元でスーパーバイザーをしていた為、その方が働いている所で仕事をさせてもらう事になりました。おまけに自分達で Vineyard に行けないと不便だろうと無料で車も貸してくれました。無料の車、どの様な車か想像できますか?車は何年も駐車場で雨にさらされ、エンジンもなかなか掛からないボロボロの車。ラジエーターに穴が開いているのでしょう。車に乗る時はまず、ラジエーターに水を注がないといけませんでした。NZ ではこの様な車も普通に走っています。それでも、私達の行動範囲が飛躍的に広がるので、ご好意に甘え借りる事にしました。

ブレナムでの仕事はコントラクター次第で仕事内容も給料も変わってくる様です。最初のコントラクターの元では仕事が少なく、仕事が無い日もあり、自ずと給料も不安定でした。そして働いていたのはほとんどが日本人。おそらく余裕が無い為に宿を作ったのでしょう。しかし、次のコントラクターは仕事も多く持っており、余裕があり、給料は 1 週間に \$600 以上の事も。働いている人達もヨーロッパや南米・アフ

リカの人達と様々。仕事もお互い助けあったり、間引いたブドウを食べたり投げ合ったりと、Vineyard では常に笑いが絶えませんでした。

休日はブレナム駅前で開かれる朝市やセカンドハンドショップ、スーパーで買い出しをしたり、映画を見たり、ブレナム周辺のワイナリーを周ったりしていました。ワイナリーではワインの試飲を無料で提供してくれる所も数多くあります。残念ながら私はお酒に弱いので楽しみは半減ですが、ワインだけでなくレストランが併設されていたり、ジャムやマーマレード等を取り扱っている所もあり、ワインに詳しくない人も十分楽しむ事ができます。車があれば休みを利用してAbel Tasman や Nelson にも行く事ができます(私達の車では恐ろしくて行く事ができませんでしたが)。

NZ で生活していると、日本以上に人の温かさに触れる機会がとても多くある様に思います。ブレナムでもコントラクターを紹介してくれた中国の方、モーテルのオーナー、スーパーバイザー等、親しい関係でなくても何か困った事があればお互いに直ぐに手を差し伸べ合う環境がありました。NZ には日本では薄くなってきたと言われる人情が残っているように思います。NZ 国内を色々と旅して美しい自然や独特の文化を見て周った事はとても良い思い出ですが、それ以上に色々な人達に出会い温かさに触れた事は私にとって掛け替えの無い宝物となっています。

Konnichiwa from Queenstown to Osaka

石井久行

昨年の10月、クライストチャーチでの現地例会(川瀬博士記念銘板除幕式など)に友人の井上さん(会員)と参加した後、マウントクックを経由してクィーンズタウンを訪れました。その時ミルフォードサウンド観光に利用したバス会社(BBQ Bus)の経営者ニックとマユミ夫婦(Rowcroft さん)が大阪に来られたので6月18日の当協会の民博見学会で再会しました。大阪はマユミさんの故郷でオフ・シーズンにははぼ毎年里帰りされているそうです。当日、オセアニア展を説明いただいたマシウス先生とも親交を深められました。現地は既にスキーシーズンですが、大阪の暑さにバテ気味のお二人でした。6月と7月は観光バスツァーはお休みらしいです。先日、堀江会員のお店(堂島 ティーハウスムジカ)で美味しいケーキと紅茶をいただきながらお話を伺いました。



ニック(Nick):NZ協会の皆さんがクライストチャーチ震 災の義援金活動をされたと伺い大変感動しました。NZ人と してお礼申しあげます。また、東日本で被害に遭われた 方々にお悔やみ申しあげます。 出身地のダニーデンはい まのところ地震がありませんが、日本とNZは多くの共通点 があり防災や環境保護などで相互協力が進むと良いと思 います。観光はお互いを理解するということでは大きな役割 を果たしています。私は、1年間メルボルン住んだこともあり ますが、オーストラリアについて見聞を深めることができまし た。観光業に興味があったので地元で観光業を学びました。 マユミとはドライバーをしている時に出会いました。当時彼 女は別会社でガイドをしていました。キーウイにはない日本 女性の魅力を持った彼女に魅かれました。今は仕事上の 有能なパートナーですが、家事も平均的なキーウイ女性よ りしてもらえるので感謝しています。 姉さん女房です。 2005 年に観光バス会社を買収して経営者・ガイド・ドライバーの 兼任を始めました。趣味はスキー・マウンテンバイク・釣りな ど。ダニーデンの波止場ではサーモンも釣れます。環境問 題に関心のある方には、オタゴ半島巡りをお勧めします。 学生時代は当然ラグビー(プロップ)もしましたが、9月から のワールドカップが待ち遠しく世界中の人々にニュージー ランドの魅力を楽しんでもらいたいです。大阪は食べ物が 美味しくまたマユミのお母さんのロールキャベツの味は格 別です。体重増が気になるので大阪では義父とアスレチッ クジムに通っています。

マユミ(真弓):オーストラリアで学生やワーキングホリディ も体験しました。10数年ほど前はムジカの近くの会社に勤 めたこともありました。堂島近辺を歩いているとふと昔の生 活を思い出しましたが、もう都会生活には戻れません。ニッ クに惚れる前にクィーンズタウンやミルフォードサウンドの魅 力に惚れました。いまでいう「山ガール」でした。帰国中もパ ソコンで仕事をこなしながらニックと日本での休暇を楽しん でいます。先日は、太秦映画村へ行き松竹の撮影現場を 観ることができました。 彼がもう少し日本語が話せるようにな ることを望んでいます。クィーンズタウンは美しい山と湖に 囲まれた小さい町で暮らしやすいですが、観光地のため物 価が高いのが困ります。ミルフォードサウンドは有名ですが、 金鉱で栄えたアロータウンやミルズブロックリゾートもお勧め です。スキーをしなければ1月から3月が観光のベストシー ズンです。地震の影響などで日本からの旅行者が減ってい ます。高級ホテルだけでなくリーズナブルな宿泊施設も多 いです。避暑にも最適な町です。ぜひお気軽にお越しくだ さい。

*お二人には、当協会にご入会いただきました。NZ観光に関しては会員仲間としてアドバイスいただけるそうです。例:日本人が奥さんで食事が美味しい「SPA B&B」、ラム肉の美味しい「Roaring Megs」などのレストランの紹介。BBQバスの詳細は、ホームページをご覧ください。www.milford.ne.nz

民博(国立民族学博物館)では、マオリの伝統芸能「カパハカ」の公演などオセアニア関連の行事が多彩に予定されています。詳細は、民博HPで。

新入会員紹介

ロウクロフト ニック&真弓 ご夫妻

Nick&Mayumi Rowcroft

クィーンズタウンで観光バス会社 BBQ BUS を運営していらっしゃいます。山と湖の美しい街に是非お越しくださいとのことです。

e-mail info@milford.net.nz BBQ BUS の営業内容



- ミルフォードサウンドへの 小グループのツアー
- クイーンズタウン半日観光
- プライベートグループチャーターバス

佐藤 文則 さま

京都市南丹町日吉町にお住まいで、先日の例会でお世話になった方です。南丹市の国際交流協会の理事や日吉町文化交流協会運営委員長をなさっています。10 年前まで大阪桜島にお勤めで輸出関係の仕事をなさっていたそうです。京都府国際センター文化事業部にて京都在住の留学生を対象にした書道教室に参加するなど幅広くご活躍されています。

亀谷 彰夫 さま

NZとの関わり:青年社会活動コアリーダー育成プログラム。 高齢者関連、障害者関連、青少年関連の社会活動に携 わる日本青年(各分野8人)を、デンマーク(高齢者)、ニュ ージーランド(障害者)、ドイツ(青少年)の各国に10日間派 遣します。

訪問国では、関係機関や施設等を訪問して、派遣分野の背景事情や社会活動に関する先進的な取組みを学ぶと共に、関係者とのディスカッション等を通じて、帰国後、日本において、社会活動の中核として活躍するための研修を行います。

NZニュースクリッピング -

人材不足の職場で外国人動労者ビザ却下

クライストチャーチの地震により、介護士として働いていた何人もの労働者で、ビザ申請中の外国人達が、先週移民局からビザを却下されたことが注目されている。

地震により現地のスタッフが市外へ非難したことで、人材 不足に陥っていた老人の介護施設で、その外国人労働者 達は、長時間のシフトで働き詰めていた。

老後施設 BUPA Aged-care Services の Dwayne Crombie 責任者の話によると、Crombie 氏は先週移民局と会い、ビザを却下された3名のフィリピン人労働者に対して異議を唱えたという。

彼らは十分熟練されたプロであるのにもかかわらず、移 民局の言い分では彼等の職種は技能移民では無いのでビ ザは許可できないとのことだ。

現在ではシニアレベルの介護士であってもビザを許可す

ることはできず、ビザのあり方に疑問を隠せない。 社会 2011 年 5 月 19 日

クィーンズタウンスキー場オープン遅れます

例年にない暖かな気温のため、スキー場オープンの延 期が相次いでいる。

クィーンズタウンのリマーカブルスキー場は、18日土曜日にオープン予定であったが、ゲレンデの状態がよくなるまで、延期となった。Ross Lawrenceマネージャによると、スノーマシンの準備は万全で、今は気温が充分下がるのを待っている状態。マウント・ハットとコロネット・ピークも同様に、今シーズンの開幕は2週間も遅れている。 社会 6月17日

南島ツーリズム厳しい冬

クライストチャーチの地震に加えて、火山灰によるフライトの欠航、スキー場の雪不足など、様々な要因が積み重なり、南島の旅行業界は厳しい冬を迎えている。

ニュージーランドホテルカウンセルの代表によると、短期滞在の旅行者数は昨年並を維持しているが、旅行者が費やすお金は多いとは言えないという。

雪不足は、オーストラリアの学校の休みを利用して、ニュージーランドに滞在しようとしていた人々に歯止めをかけている。しかしながら、目下最大の問題は、クライストチャーチの余震であり、最大市場であるオーストラリア、韓国、日本からの旅行者を妨げている。 社会 2011 年 6 月 23 日

クライストチャーチにもっと旅行者を

クライストチャーチの観光旅行業界では、地震の影響で 利益の 75%を無くした会社もある。

現在のところ、クライストチャーチの旅行関連業は、95%が 復帰し営業を開始している。市は旅行者の増加を求めてい るという。クライストチャーチでは、宿泊施設が甚大な被害 を受けており、ベッドの数は 7,000 を少し超える程度でしか ないが、まだ充分に空きがあるという。

Tourism Industry Association では、自然災害と世界的な 金融危機のために、先行きが明確ではないが、ニュージーランド旅行業界の基盤は頑強であり、持ちこたえてゆくと見ている。 社会 2011 年 5 月 25 日

今後のカンタベリー地震予測

政府の科学者は、来年カンタベリーを地震が襲う確率は、 ほぼ 4 分の 1 の確率であるという予測を出した。

GNS Science は、マグニチュード 6.0 から 7.0 の地震の確率が 23%と発表した。

最近、カンタベリーでは 2 つの大きな地震が発生した。 昨年9月4日のマグニチュード7.1と、それに続き、破壊的 なダメージをもたらした2月22日のマグニチュード6.3であ る。GNSの科学者によると、この予測は、信頼できる世界的 な余震モデルをもとに導き出されたとのこと。また彼は、クライストチャーチ市を地震が襲う確率は、6%であると語った。

クライストチャーチの市長 Bob Parker 氏は、この予測を恐ろしいと感じる人もいるだろうが、9月の最初の地震以来、GNS はこれ以下の数値を予測し続けている、災害に対する危険はこれまでも常にあった、と市民に怖がりすぎないよう呼びかけているが、一方で住民は非常用物資の蓄積を心がけるようにすることが大切だと説く。

社会 2011年6月1日

政府、クライストチャーチ被害地域対策発表

中々進展しないクライストチャーチ地震復旧で、政府による今後の見通し等の決定発表がはっきりしないなど、不満と苛立ちが頂点に達している市民だったが、ようやく政府が23日午後1時半に被災地住宅の今後の運命を発表した。

新たに被災の被害程度を赤、オレンジ、緑、白の4つに区分し、最も被害のひどい赤の区域内、Bexley, Avonside, Avondale, Dallington, Horseshoe Lake 区域の住宅約5,000棟は建替えには年月と費用が膨大にかかることから、政府は保険に入っている住宅の所有者に対し、2007年度の土地評価額で買い取るというオファーを出した。住宅5,000棟の購入で政府は4億8,500万ドルから6億3,500万ドルを費やすことになる。

今回の政府からのオファーにより、最も援助を得られるのは、震災に被害に合いながらも住宅のダメージが酷くなかった住宅で、保険の支払が小額でありながらも、震災前の評価額で政府が買い取りするところだという。

その他、緑の区域である約 10 万棟は住居が建替えられることとなり、オレンジの区域約 1 万棟は更なる調査が強いられる。

Lyttelton やその他 Port Hills 区域を含む白の地域は 6 月 13 日の地震被害後の査定がまだ終わっておらず、まだ区分できていないので引き続き回答を待つ事になる。

社会 2011年6月24日

第 228 例会 神戸でクック&テイスト NZ ラム&ビーフ













第 229 例会 美山町での記念写真





第 229 例会 南丹町との交流会風景



